

中長期目標 (学校ビジョン)	校訓である「共生」「自立」「感謝」を基調とし、「温かい人間関係」「高い志と生き抜く力」「自己への挑戦」を大切にし社会に貢献出来る人材の育成を目指す。
-------------------	--

今年度の重点目標	1. 個々に応じた基礎学力の向上・資格の取得 2. 規律ある生活態度の育成・徹底 3. 望ましい人間関係の構築 4. キャリア教育の推進と充実・早期の進路決定
----------	--

評価基準
 A：ほぼ達成 B：概ね達成 C：まだ不十分 D：方策の見直し
 (90%程度) (70%程度) (50%程度) (30%以下)

年度当初				評価結果(10月)				最終評価		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方法	評価	目標の達成状況	次年度引継ぎ事項等
個々に応じた基礎学力の向上・資格取得	○個々に応じた学習意欲の喚起	○不登校傾向等により学習の空白時間を有する生徒も多く、基礎学力の定着(主に英語・数学)が充分とはいえない。 ○ルビ対応等具体的支援の必要な生徒がある。	○学ぶこと、分かることの喜びを知り、意欲的・自立的・計画的な学習展開を図れる。	○1年間の流れを丁寧に説明し、試験やスクーリング等単位認定に大きく関わるものへの出席を促す。 ○支援が必要な場合、どのようなサポートがあれば意欲的になれるのかを本人と確認を取りながら進めていく。	○繰り返し、試験日程、試験後の対応を伝えることで、欠席者を減らすことが出来た(出席率97%)。ただ、追試の人数は例年より増加した。 ○試験において、用紙サイズ、ふりがな、問題用紙と解答用紙を1枚にする等、必要な支援を具体的に確認し、対応した。	B	○引き続き、試験に向けての意識を早めに持たせ、欠席者を減らす。前期に追試となった生徒は個別面談をし、試験の重要性を再度伝える。 ○試験については継続して対応していく。合わせて追試課題についても試験前に具体的な対応策を用意しておく。	B	○昨年度と比べ試験時の欠席者を減らすことができた。(昨年度出席率88%、今年度出席率95%) ○支援の必要な生徒は試験前に保護者を交えて懇談をし、要望を確認し対応した。	○1年間の流れを丁寧に説明し、試験やスクーリング等単位認定に大きく関わるものへの出席を促す。 ○支援が必要な場合、どのようなサポートがあれば意欲的になれるのかを本人と確認を取りながら進めていく。また、年間・学期・月・週ごとに小さな目標を決め達成感を持たせていく。
	○授業の質の更なる向上	○生徒を引き付ける授業の工夫が必要。	○生徒の情報を共有し、授業の質を向上させる。 ○職員の自己研鑽が日々行われている。	○担当教科だけでなく、教科横断的な視点で、教員同士連携を取り、魅力的な授業展開を図る。 ○自己研鑽の評価として、様々な資格取得に挑戦する。	○「情報処理」と「総合学習」、「政治・経済」と「美術」等複数教科の担当のメリットを活かし、教科横断的な取り組みが出来ている。 ○個人での英語検定受検や、職員全体でのコーチング研修等で自己研鑽が行われている。	B	○他の教科においても、他教科と連携できる授業展開をしていく。 ○引き続き、個人での資格取得や職員全体での研修を計画していく。	B	○「国語」と「美術」、「美術」と「理科」等他教科で教科横断的な取り組みが出来た。 ○自己検査難としての資格試験に挑み、合格することができた。	○教員同士連携を取り、魅力的な授業展開を図る。 ○職員の自己研鑽として、様々な資格取得にチャレンジする。
	○資格取得率の向上	○漢字検定3級以下合格率50%、準2級2名合格。 ○パソコン検定3級以下合格率52%。2級1名、準2級4名合格。	○漢字検定およびパソコン検定3級以下の合格率が55%以上、かつ各種検定の上位級(準2級以上)の合格者数を増やす。	○玄関に検定上位級合格者を掲示する。視覚化することで生徒のモチベーションアップを図り、受験日の欠席者を減らす。	○玄関に検定上位級合格者を掲示した。漢字検定3級以下合格率30/46人65%。準2級合格者2名。パソコン検定3級以下合格率16/38人42%。準2級合格者6名。	○不合格が多かった学年は、学習の仕方(個人記録表を使った進め方)を生徒に再確認し、各検定とも3級以下の合格率55%以上を目指すよう、指導していく。	B	○漢字検定3級以下合格率59%、準2級3名、2級1名合格。 ○パソコン検定3級以下合格率35%、準2級9名、2級3名合格。 ○漢字検定については55%の目標をクリア。パソコン検定は、目標値未達。各検定とも上位級の合格者が増えた。 ○玄関に上位級を掲示することで、生徒のモチベーションアップにつながった。	B	○出席率が増加したため、授業での検定対策が功を奏した。漢字検定においては、継続して対策を進めていく。パソコン検定においては、検定取得が就職・進学に有利になること等、動機づけをさらに意識し、検定日までの学習スケジュールを再検討していく。
規律ある生活態度の育成・徹底	○学校の規律やルールの遵守、公共の場でのマナー向上	○服装検査の基準に達していない生徒が減り、翌週に持ち越し生徒も減った。	○社会で通用する身だしなみと生活習慣を身に付けさせる。	○服装検査後にひっかかった生徒をその場に直し、どこを直すのかを自覚させる。	○服装検査後に、引っかかった生徒に対し、念入りに確認することで、翌週に引っ張る生徒が減った。	B	○その場では合格しても、数日すると服装を乱す生徒が固定化されている。職員が同じ認識を持って生徒指導に当たる。	B	○毎月の服装検査を継続することで、服装のルールは徐々に定着してきた。	○ルールを書面化することで、生徒・職員・保護者とも視覚的に共有し、毎月の服装検査を継続していく。
	○積極的な挨拶の定着	○玄関先での個人的な声かけをすることであいさつができる。	○挨拶をする習慣を身に付けさせる。	○職員が個別に名前を呼んで玄関先や校舎内で継続的に声かけをする。	○個別に声かけをすることで、表情や髪形などの小さな変化にも気づくことが出来た。	B	○玄関先での声かけを継続していく。	B	○玄関での声かけをすることで、登校した生徒の様子や変化に気づくことができた。	○玄関先での声かけをすることでともに服装の確認もし、合わせてHR、全校集会でもしていく。
	○清掃活動の習慣化、学習環境の整備が整う	○当初は雑巾を持ったまま何をしていいかわからなかった生徒も、自主的に清掃を行えるようになっていく。	○自らが率先し毎日清掃活動を行う姿勢を身に付けさせる。	○年度当初に掃除場所・やり方を丁寧に確認し、生徒自身で行動できるようにする。	○年度初めに掃除場所・やり方を確認した。掃除が苦手な生徒には個別にやり方を伝え、掃除場所を任せることで責任感を高めさせた。	○自らが清掃活動できる生徒もあるが、生徒によって差がある。職員の見回りがあることで掃除ができていない生徒もいるので、不定期にNO見回りdayを設け、意識を高める。	B	○NO見回りday(職員が掃除の見回りをしない日)を設けることで、自主性を高めることができた。ただ、一部の生徒は引き続き個人的なかかわりが必要である。	B	○清掃場所の確認を職員が交代で担当することで、清掃の仕方・「きれい」の基準を全職員・全生徒で共有する。
望ましい人間関係の構築	○信頼し合える関係作り	○アンケートでは91%の保護者が「入学させてよかった」と回答。 ○「ソフトなタベ」は参加者が固定化。	○保護者・生徒アンケートで満足度90%以上。 ○生徒・保護者と職員同士が認め合い何でも話せる雰囲気を作り、「ソフトなタベ」の参加者を増やす。	○保護者アンケートを年2回(前期・後期)にして継続。 ○生徒にもアンケートを実施(年2回)し、満足度を確認する。 ○「ソフトなタベ」の継続。隔月で曜日(火・水)を変え、参加を促す。	○第1回目の保護者アンケートを実施(9月)。要望記入が増えた。 ○今年度より生徒へのアンケートも実施(9月)。84%が入学してよかったと回答している。ただ、20%が学校は自分を理解してもらっていないと感じている。 ○隔月で曜日を変えることで、今まで参加しづらかった保護者も出席できるようになった。	B	○毎月の便りと共に、要望を記入してもらう用紙を配布し、保護者の不安や要望を把握、対応する。 ○学校側のはたらきかけが生徒にうまく伝わっていないことがある。1対1で話す場を意識して設け、生徒からの信頼度を高めていく。 ○新規の参加者は増えたものの、コロナの関係もあってか、全体の参加者数が減っている。状況を見ながら、開催を検討していく。	B	○第2回目のアンケートでは、「入学してよかった」の回答は生徒80%、保護者89%。3年生に関しては生徒満足度100%。 ○「ソフトなタベ」の参加者は平均7.5人。一度参加してもらえると雰囲気が伝わるが、今年度は4月の総会後の開催がなかったため、初めての保護者にとっては参加しづらさがあったように感じる。	○年2回の生徒・保護者アンケートを継続して実施(9月・1月・3年・2月) ○保護者の横のつながりの強化 ○次年度の保護者総会は実施の方向で、「ソフトなタベ」の出席にもつなげていく。隔月で曜日(火・水)を変えての実施を継続する。
	○クラスでの仲間作り	○乱暴な言葉は聞かれなくなったが、コミュニケーション能力・語彙力の低い生徒がみられる。 ○勉強室終日利用の生徒は減った。	○人間関係の固定化の枠を外し、一人当たりの勉強室の利用時間を少なくする。	○気になる生徒に関して、授業と授業の間に教科担当と次時間の教科担当、クラス担任で情報交換をする。	○気になる生徒の情報を早い段階で共有し、大きなトラブルになる前に対応することが出来た。	○引き続き、早い段階での情報共有をしていき、トラブルを未然に防いでいく。	B	○毎月のお便りと共に保護者宛て要望記入の用紙を同封することで、家庭での小さな不安や要望を早めに聞き出し、対応することができた。	B	○中央祭や修学旅行が縮小になったことをうけ、生徒が自主的に今できる行事を計画。各学年の仲間意識が高まった。今後も継続していきたい。

年度当初				評価結果（10月）				最終評価		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方法	評価	目標の達成状況	次年度引継ぎ事項等
キャリア教育の 充実・早期進路 決定	○幅広い視野・職業観の更なる育成	○視野が狭く、偏っていると同時に職業に関する知識が少ない。	○幅広い選択肢の中から進路目標を見つけさせ、進路実現のため日々努力させる。	○学校見学、出前授業、職業人講話の提供。生徒にも希望職種のアンケートを実施する。アンケートをもとに、学校見学、職場見学の計画を立案する。	○希望職種のアンケートは未実施。専門学校の見学を実施。見学希望学科のアンケートを実施。	B	○感染症の影響で職業人講話の計画が立てられていない。希望職種のアンケートは10月に実施予定。	B	○希望職種のアンケートは未実施。感染症の影響で外部講師の目途が立てられていない。	○感染症の様子を見ながら、学校見学、出前授業、職業人講話の計画を立てていく。
	○進路希望と適性に対する自己理解の更なる促進	○自己理解が乏しく、なりたい自分が見えていない生徒が多く見られる。	○自己理解を促し、理想の自分を見つけさせる。	○年間を通してのキャリア教育計画を視覚化する（オープンキャンパス、資料請求、求人検索、面談練習等）。	○キャリア教育計画を視覚化し、職員間で共有した。		○計画は立てたものの、コロナの影響もあり実施できないものが多かった。毎月の職員会で実施の有無を確認しながら進めていく。		○オープンキャンパスの在り方も学校によって様々であったが、個々に対応し、順調に進めることができた。 ○3年生進路決定17/19名（89%）	○キャリア教育計画を視覚化したものの、活用しきれていなかった。学期ごとに各学年の動きを共有していく。
	○進路実現に向けての早目の具体的な行動化	○1、2年生も進路調査アンケートを実施し、次学年に向けての行動につなげる準備ができています。	○自らの進路について真剣に考えさせることで、具体的な行動を起こさせる。	○進路実現に向けたアルバイト経験を促す。	○生徒の進路希望を基に、アルバイトを促していった。		○継続して、生徒の進路実現に向けたアルバイトを促していく。		○単位取得・出席状況に問題のない生徒はアルバイトを許可。ただし、事前に申請書を提出することで、バイト先を確認する。	○社会経験・自己実現に向けたアルバイトを促す。
	○ボランティア活動や地域交流活動への参加を図る	○様々なボランティア活動に参加することで、生徒の経験値を増やし、地域貢献することが出来ている。	○自ら率先してボランティア活動や地域貢献する姿勢を身につけさせる。	○年間を通しての予定を示した上で、ボランティア活動の啓発、案内等情報提供し、生徒の興味関心の幅を広げる。 ○継続したボランティア活動を行っていく。またボランティア参加の生徒を視覚化し、学期末にボランティア表彰を実施する。	○ボランティア活動の啓発、案内等情報提供することで、ボランティア経験のない生徒も興味を示してくれた。 ○ボランティア参加の生徒を視覚化した。ただし、感染症の影響で継続したボランティア活動はできていない。		○ボランティア希望者は増えたものの、コロナの影響で、ボランティア自体が中止になり活動が出来ていない。状況を見ながら情報提供をしていく。 ○できる範囲でのボランティア活動を紹介し、参加生徒の視覚化を継続していく。		○春休み中によくボランティア活動をする事ができた。来年度も大きく状況は変わらないと思うので、地域交流の新たな方法を検討する。	○ボランティア参加の生徒を視覚化し、学期末にボランティア表彰を実施する。